

本資料は、ブリストル・マイヤーズ スクイブ社が 2020 年 4 月 20 日に発表しましたプレスリリースの和文抄訳であり、内容につきましては英語原文が優先されます。

ブリストル・マイヤーズ スクイブ社、未治療の悪性胸膜中皮腫を対象に オブジーボ®とヤーボイ®の併用療法を化学療法と比較評価した ピボタルな第Ⅲ相試験の肯定的なトプライン結果を発表

- CheckMate -743 試験の中間解析において、オブジーボとヤーボイの併用療法が、化学療法と比較して、生存期間を延長しました。
- 悪性胸膜中皮腫は悪性度の高い希少がんであり、治療選択肢は限定的です。

(ニュージャージー州プリンストン、2020年4月20日) ブリストル・マイヤーズ スクイブ社 (NYSE: BMY/本社: 米国ニューヨーク/CEO: ジョバンニ・カフォリオ) は、本日、未治療の悪性胸膜中皮腫 (MPM) を対象としたピボタルな第Ⅲ相 CheckMate -743 試験において、オブジーボ® (一般名: ニボルマブ) とヤーボイ® (一般名: イピリムマブ) の併用療法が、主要評価項目である全生存期間 (OS) を延長したことを発表しました。独立データモニタリング委員会であらかじめ計画されていた中間解析で、オブジーボとヤーボイの併用療法が、化学療法 (ペメトレキセドとシスプラチンまたはカルボプラチンの併用療法) と比較して、統計学的に有意に、臨床的に意義のある OS の改善を示しました。

本試験で認められたオブジーボとヤーボイの併用療法の安全性プロファイルは、本併用療法でこれまでに認められているものと一貫していました。

ブリストル・マイヤーズ スクイブ社の胸部悪性腫瘍担当開発責任者である Sabine Maier (M.D.) は、次のように述べています。「悪性胸膜中皮腫は悪性度の高い疾患であり、過去 10 年間において悪性胸膜中皮腫の治療における進展は限定的でした。CheckMate -743 試験のトプライン結果は、オブジーボとヤーボイの併用療法が、未治療の悪性胸膜中皮腫患者さんの治療選択肢となる可能性を示しており、免疫療法薬の 2 剤併用療法が、複数のがん腫において示してきた有効性と安全性をさらに裏付けるものです。本試験の実施中、また COVID-19 パンデミックの真っ只中、患者さんにこの重要な結果をもたらすことができたことに対して、本試験にご忍耐強く参加いただいた患者さん、治験責任医師と医療現場の職員の方に感謝します。今後は、学会での結果の発表に向けて治験担当医師と連携していくとともに、規制当局と協議してまいります。」

CheckMate -743 試験について

CheckMate -743 試験は、未治療の悪性胸膜中皮腫 (MPM) 患者を対象に、オブジーボとヤーボイの併用療法を、化学療法 (ペメトレキセドとシスプラチンまたはカルボプラチンの併用療法) と比較評価した多施設無作為化非盲検第Ⅲ相臨床試験です。オブジーボは 3 mg/kg を 2 週間間隔で、ヤーボイは 1 mg/kg を 6 週間間隔で投与されました。本試験の主要評価項目は OS でした。副次評価項目は、奏効率 (ORR)、病勢コントロール率 (DCR)、無増悪生存期間 (PFS)、および PD-L1 発現レベルに基づく有効性判定でした。

悪性胸膜中皮腫について

悪性胸膜中皮腫は、悪性度の高い希少がんであり、肺の内側を覆う膜から発生します。発症の主な原因はアスベストへの曝露です。早期発見が難しく、診断された時には、多くの患者ですでに進行または転移が認められます。一般的に予後は不良であり、未治療の進行または転移性悪性胸膜中皮腫患者の生存期間の中央値は 1 年未満、5 年生存率は約 10% です。

ブリストル・マイヤーズ スクイブ社: がん研究の最前線

ブリストル・マイヤーズ スクイブ社は、患者さんを全ての活動の中心に据えています。当社は、患者さんに質の高い長期生存をもたらす、治療を実現することを目標にがん研究を行っています。

サイエンスにおける豊富な経験を生かし、最先端の技術と創薬プラットフォームを駆使して、患者さんのために革新的な治療法を開発し、提供しています。

当社は、血液疾患領域およびがん免疫領域における革新的な研究と実績を通じて、さまざまながん腫において生存期間の改善をもたらすとともに、さまざまな治療法を探索し、豊かかつ多様なパイプラインを構築しています。免疫細胞療法の分野においては、多数の疾患で **CAR-T** 細胞療法を導入し、細胞・遺伝子治療の標的の発見や技術の発展につながる早期パイプラインを拡大しています。また、多発性骨髄腫における承認済の療法、および早期・中期開発段階にある有望な化合物を生み出す基盤として、タンパク質ホメオスタシスなどの新たなプラットフォームを活用し、主要な生物学的経路を標的としたがん治療法の研究を進めています。当社は、さまざまな免疫経路を標的とした治療法の開発に取り組み、腫瘍、腫瘍の微小環境および免疫系の相互作用に着目することで、より多くの患者さんが奏功を示す治療を提供できるよう、更なる進化を目指しています。このような複数の治療アプローチを融合させることは、がん治療の新たな選択肢を提供し、免疫療法に対する耐性を克服するために重要です。当社は、革新的な医薬品を患者さんに提供するため、社内でイノベーションを創出するとともに、学术界、政府、アドボカシー団体、バイオテクノロジー企業と提携しています。

オプジーボについて

オプジーボは、身体の免疫系を利用して抗腫瘍免疫応答を再活性化する **PD-1** 免疫チェックポイント阻害薬です。がんを攻撃するために身体の免疫系を利用するオプジーボは、複数のがん腫において重要な治療選択肢となっています。

業界をリードするオプジーボのグローバル開発プログラムは、ブリストル・マイヤーズ スクイブ社のがん免疫療法における科学的知見に基づいており、さまざまながん腫を対象に、第Ⅲ相試験を含む全段階において広範な臨床試験が実施されています。今日に至るまで、オプジーボの臨床試験プログラムには、**35,000** 人以上の患者さんが参加しています。オプジーボの臨床試験は、治療におけるバイオマーカーの役割、特に、一連の **PD-L1** の発現状況においてオプジーボが患者さんにどのようなベネフィットをもたらすかについて理解を深めることに役立っています。

オプジーボは、**2014** 年 **7** 月に承認を取得した世界初の **PD-1** 免疫チェックポイント阻害薬となり、現在、米国、欧州、日本および中国を含む **65** カ国以上で承認されています。**2015** 年 **10** 月、ブリストル・マイヤーズ スクイブ社は、オプジーボとヤーボイの併用療法において転移性悪性黒色腫の適応でがん免疫療法薬の併用療法として初めて承認を取得し、現在、米国と欧州を含む **50** カ国以上で承認されています。

ヤーボイについて

ヤーボイは細胞傷害性 **T** リンパ球抗原-**4** (**CTLA-4**) に結合する遺伝子組み換えヒトモノクローナル抗体です。**CTLA-4** は、**T** 細胞の活性化を抑制する調節因子です。ヤーボイは **CTLA-4** と結合し、**CTLA-4** とそのリガンドである **CD80/CD86** との相互作用を阻害します。**CTLA-4** が阻害されると、腫瘍浸潤エフェクター **T** 細胞の活性化と増殖など、**T** 細胞の活性化と増殖が促されることが明らかになっています。また、**CTLA-4** のシグナル伝達が阻害されると、制御性 **T** 細胞の機能が低下し、抗腫瘍免疫応答を含む **T** 細胞の反応性が全体的に向上する可能性があります。**2011** 年 **3** 月 **25** 日、米国食品医薬品局 (**FDA**) は、切除不能または転移性悪性黒色腫患者の治療薬として、ヤーボイ **3mg/kg** 単剤療法を承認しました。現在、ヤーボイは切除不能または転移性悪性黒色腫患者の治療薬として **50** カ国以上で承認されています。ヤーボイに関しては、複数のがん腫で、幅広い開発プログラムが進められています。

オプジーボとヤーボイの併用療法の適応症および安全性情報について

米国でのオプジーボとヤーボイの併用療法の適応症および安全性情報については、原文リリースをご参照ください。

ブリストル・マイヤーズ スクイブ社と小野薬品工業の提携について

2011 年、ブリストル・マイヤーズ スクイブ社は、小野薬品工業と締結した提携契約により、当時、小野薬品工業がすべての権利を保有していた北米以外の地域のうち、日本、韓国、台湾を除く世界各国におけるオプジーボの開発・商業化に関する権利を獲得しました。**2014** 年 **7** 月 **23** 日、ブリス

トル・マイヤーズ スクイブ社と小野薬品工業は、この戦略的提携契約をさらに拡張し、日本、韓国、台湾のがん患者さん向けに複数の免疫療法薬を単剤療法および併用療法として共同開発・商業化することを合意しました。

ブリistol・マイヤーズ スクイブ社について

ブリistol・マイヤーズ スクイブ社は、深刻な病気を抱える患者さんを助けるための革新的な医薬品を開発し、提供することを使命とするグローバルなバイオフーマ製薬企業です。ブリistol・マイヤーズ スクイブ社に関する詳細については、[BMS.com](https://www.bms.com) をご覧くださいか、[LinkedIn](#)、[Twitter](#)、[YouTube](#)、[Facebook](#) および [Instagram](#) をご覧ください。

セルジーン社およびジュノ・セラピューティクス社は、ブリistol・マイヤーズ スクイブ社の100%子会社です。米国以外の幾つかの国では、現地法の規定により、セルジーン社およびジュノ・セラピューティクス社は「Celgene, a Bristol Myers Squibb company」および「Juno Therapeutics, a Bristol Myers Squibb company」と称されています。

将来予測等に関する記述の注意事項

本プレスリリースは、特に医薬品の研究、開発および商業化について、1995年民間有価証券訴訟改正法の趣旨の範疇に含まれる「将来予測に関する記述」を含んでいます。歴史的事実ではない全ての記述は、将来予測であるか、将来予測であると見なされるものです。そうした将来予測に関する記述は過去の実績ならびに将来の業績、目標、計画および目的に関する現在の予想および予測に基づくものであり、今後数年間で予測が困難あるいは当社の支配下でない遅延、転換または変更を来す内的または外的要因を含む内在的リスク、仮定および不確実性を伴い、将来の業績、目標、計画および目的が、本文書で記述または示唆されている内容と大きく異なる結果となる可能性があります。これらのリスク、仮定、不確実性およびその他の要因には、特に、オプジーボとヤーボイの併用療法が本プレスリリースに記載された追加の適応症の承認を現在想定している時期に受けられないまたは全く受けられない可能性、また承認された場合でも、そのような併用療法が本プレスリリースに記載された追加の適応症で商業的に成功するかどうかは不明であるという点が含まれています。将来予測に関するいかなる記述も保証されるものではありません。本プレスリリースの将来予測に関する記述は、ブリistol・マイヤーズ スクイブ社の事業と市場に影響を与える多くのリスクおよび不確定要素、特にブリistol・マイヤーズ スクイブ社の2019年12月31日に終了した事業年度通期報告書 (Form 10-K)、その後の四半期報告書 (Form 10-Q) および当期報告書

(Form 8-K) など、当社が証券取引委員会に提出した報告書にリスク要因として記されている不確定要素と共に評価されるべきです。本プレスリリースに記載された将来予測等に関する記述は、本プレスリリースの発表日時点での予測であり、準拠法で特段の定めのない限り、ブリistol・マイヤーズ スクイブ社は、新たな知見、今後の出来事等に因るか否かを問わず、一切の将来予測等に関する記述について、公に更新または修正する義務を負うものではありません。